

第4回 九頭竜川自然再生計画検討会

議事骨子

日時：平成20年3月17日(月) 14:00～16:30
場所：フェニックスプラザ 地下 大会議室

1. 議事

事務局より、第3回検討会の意見に対する回答及び水際環境保全・再生(九頭竜川下流域)、砂礫河原再生(九頭竜川中流域)、支川・水路連続性再生(九頭竜川、日野川)について、それぞれの再生概略方針の説明がありました。

また、九頭竜川の各再生事業における再生概略方針について、各構成員から以下のような意見がありました。

水際環境保全・再生

- ・九頭竜川においては、オオヒシクイは夜中にマコモを採餌する。
- ・抽水植物群落の幅については、オオヒシクイの餌場を維持するという点で、他県の飛来地の観察事例等を参考にできないだろうか。
- ・浅場の造成については、造成後の河岸浸食に配慮する必要がある。
- ・河岸の横断形状は田んぼまでなだらかに繋げ水生植物帯の幅を広くとる方がよいと思う。

整備時には現場に適した形状を検討する必要があると考えています。

砂礫河原再生

- ・カワラハハコやカワラヨモギの大きな群落は福松大橋にしか残っていない。また、砂礫河原がなければ生育できないと考えられるので、砂礫河原の再生が先決なのではないかと思う。
- ・整備メニューである澇筋の造成と砂州の切り下げは個別に実施した方がよいかもしれない。

整備の順序や整備箇所等については、今後の段階的な実施で対応していきたいと考えています。

- ・かつて九頭竜川でコロニーを形成していたサギが現在社叢林とか屋敷林に営巣しており厄介者となっている現状があるので、将来的に河川に戻ってきてもらうのが最もよい共存の方法だろうと考えられる。
- ・サギの営巣地としては河川敷の幅が最も広く樹林帯が発達している箇所がよいのではないか。
- ・イカルチドリやコアジサシの営巣環境が増水により流されないようにすることも考慮する必要があるのではないか。具体的には2,3年に一回冠水するような箇所を設けるとよいと思う。

支川・水路連続性再生

- ・足羽川，日野川の今庄，南川でもハーフコーン型魚道が設置されている。
- ・芳野川ではヨシノボリの遡上が確認されていないため，魚道設置の効果を見るために芳野川からまず整備してはどうか。

2．事務連絡等

事務局より，配付資料の一部を情報公開方針に則りホームページ上での公開は控えさせていただき旨の説明がありました。